

遊休農地を再生し野菜栽培へ新規参入

【平成 29 年 8 月 10 日掲載】

竹原市は 100 年以上続くぶどう産地ですが、近年は栽培をやめる生産者も多く、遊休農地が目立つようになってきました。

中央 4 丁目在住の赤坂佳折（あかさかかおり）さん(46 歳)は、この状況を目の当たりにし、「このままではいけない、私が何とかしなくては！」と一念発起し、異業種(建物内装業)から農業の世界に飛び込み、野菜栽培を開始しました。

昨年 5 月、以前ぶどう園地であった排水性の良いほ場 12a に定植したアスパラガス(品種: ウェルカム)は順調に生育し、春芽の単位当たり収量が 500 kg/10a を超えました。

また、新たな試みとして、昨年 12 月に 10a に定植した白ねぎ(品種: 春扇, 羽緑一本太)は、収量が 3.8t となり、他産地の端境期を狙って 6~7 月に出荷することができました。

赤坂さんはこれまでに約 2 ha の農地を借り受けており、「今後も作付を進め、地域の農地を守っていきたい。」と話されました。



【定植 2 年目のアスパラガス(4 月)】



【収穫中の白ねぎ(7 月)】